

ブドウ「巨峰」「ピオーネ」での花房浸漬1回処理による無核栽培

「巨峰」及び「ピオーネ」は、ジベレリン (25ppm) と フルメット (10ppm) を混用し、満開3日後に花房浸漬1回処理を行うことで、無核栽培が可能となる。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室 (担当者: 岩谷章生)

研究のねらい

巨峰系の大粒品種は花振るい性が強いので、結実が安定している無核栽培の普及を図っているが、従来は花房浸漬処理を2回実施していたため、労力が多くかかり、普及上の障害となっていた。

そこで、本県の主要品種である「巨峰」及び「ピオーネ」について、花房浸漬処理の省力化を図るため、花房浸漬1回処理による無核栽培法を確立する。

研究の成果

1. 「巨峰」「ピオーネ」とも、花房浸漬1回処理 (ストレプトマイシン散布の場合も含む) は慣行の2回処理と比べて、結実率に大きな差が無いため、着粒不足になったり、摘粒に多くの労力が必要になることはない (図1)。
2. 「巨峰」「ピオーネ」とも、花房浸漬1回処理 (ストレプトマイシン散布の場合も含む) は慣行の2回処理と比べて、果実品質に大きな差はなく、品質面での問題はない (表1, 2)。

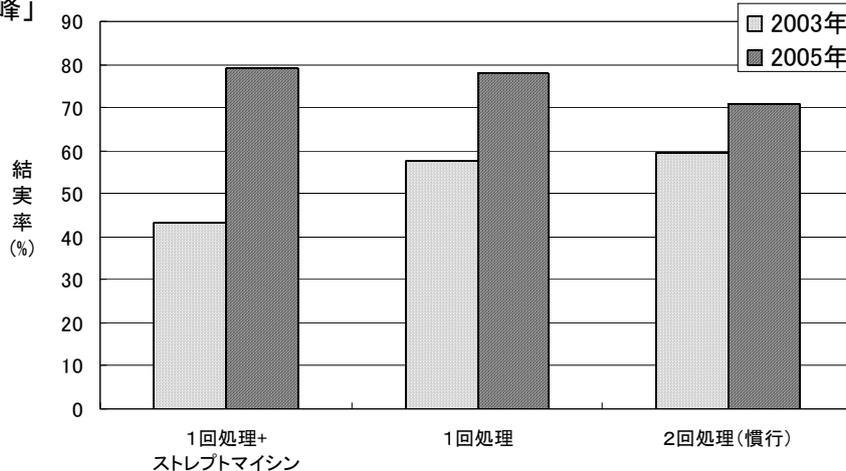
普及上の留意点

- 1 花房浸漬1回処理では穂軸及び果梗が2回処理より硬くなり、脱粒しやすくなるので、果粒の間が開きすぎないように摘粒し、がっしりした「にぎり房」を作る。
- 2 1果房当たりの含核数は、「巨峰」の花房浸漬1回処理で多くなることもあるため、無核になりにくい場合は、ストレプトマイシンを満開予定日の14日前～開花始めまでに散布する。

【具体
4 (平成1
類コード02
農林水産部

的データ)
No. 28
8年5月)分
-10 熊本県

「巨峰」



「ピオーネ」

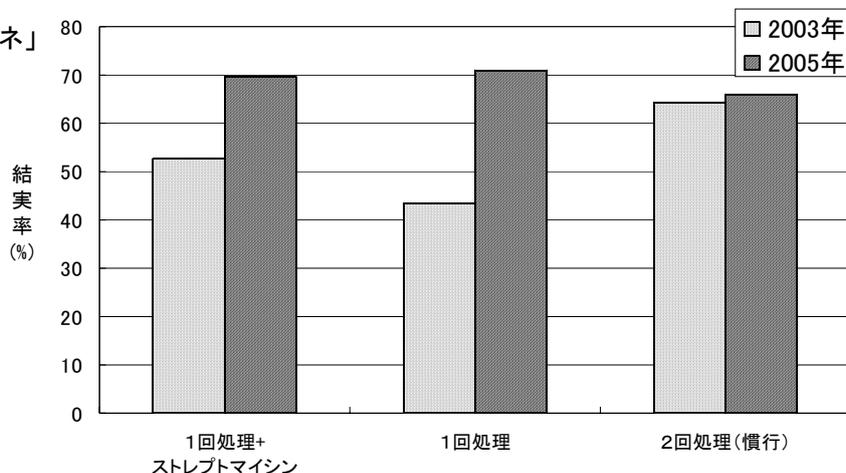


図1 植調剤処理方法の違いによる「巨峰」「ピオーネ」の結実率

注) 処理方法

(1) 1回処理+ストレプトマイシン区

開花開始日の14日前(2003年)、5日前(2005年)にストレプトマイシン剤を散布し、満開3日後にジベレリン25ppm+ホルクロールフェニユロン(商品名:フルメット液剤)10ppmを花房浸漬処理

(2) 1回処理区

満開3日後にジベレリン25ppm+ホルクロールフェニユロン(商品名:フルメット液剤)10ppmを花房浸漬処理

(3) 2回処理(慣行)区

「巨峰」は満開日にジベレリン25ppm+ホルクロールフェニユロン(商品名:フルメット液剤)5ppmを、満開10日目後にジベレリン25ppmを花房浸漬処理

「ピオーネ」は満開日にジベレリン12.5ppm+ホルクロールフェニユロン(商品名:フルメット液剤)5ppmを、満開10日目後にジベレリン25ppmを花房浸漬処理

表1 植調剤処理方法の違いによる「巨峰」の果実品質

年度	区	果房重 (g)	1粒重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)	含核数 (個/果房)	果皮色 ^{x)}
2003	1回処理+ストレプトマイシン	331	12.4	16.5	0.68	0.2	6.5
	1回処理	344	12.7	16.7	0.66	1.4	6.3
	2回処理(慣行)	374	12.4	17.1	0.69	0.3	6.1
2005	1回処理+ストレプトマイシン	323	10.4	18.0	0.64	2.7	7.3
	1回処理	315	10.3	17.5	0.64	5.7	7.3
	2回処理(慣行)	347	11.1	18.0	0.62	2.3	6.3

x) 農水省果樹試基準カラーチャート値

表2 植調剤処理方法の違いによる「ピオーネ」の果実品質

年度	区	果房重 (g)	1粒重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)	含核数 (個/果房)	果皮色 ^{x)}
2003	1回処理+ストレプトマイシン	327	13.6	18.2	0.54	0.0	6.4
	1回処理	346	13.9	17.9	0.57	1.0	6.1
	2回処理(慣行)	351	13.8	18.2	0.27	0.4	5.8
2005	1回処理+ストレプトマイシン	341	11.2	19.8	0.50	2.5	6.8
	1回処理	357	11.4	19.1	0.51	3.3	6.6
	2回処理(慣行)	343	11.0	18.7	0.49	3.4	6.4

x) 農水省果樹試基準カラーチャート値